

ばんきんニュース

日本分析化学会近畿支部ニュース 第2号

2005年12月12日

2005年度近畿分析技術研究奨励賞 受賞者決まる

今年からスタートした近畿分析技術研究奨励賞の受賞者は、池羽田晶文さん（関西学院大学理工学研究科博士研究員、「表面プラズモン共鳴近赤外分光法（SPR-NIRS）の確立」）と倉内奈美さん（京都電子、「液体比熱計の研究開発」）の2名に決まりました。中原武利支部参与（大阪府立大学名誉教授）を委員長とし7名の選考委員からなる選考委員会から推薦された2名が、12月9日の第3回幹事会で承認されたことによるものです。

表彰式は2006年1月13日（金）15：00から大阪科学技術センターでおこなわれます。また、4時からは受賞者2名による講演会があり、5時からは懇親会が予定されています。詳細はホームページで案内する予定ですのでご覧ください。ぜひとも多数のご参加をお願いします。

国際交流助成制度（第1期分）に5名が 選ばれる

こちらの方も、今年からスタートした支部の新しい制度である国際交流助成（第1期 2005年12月から2006年5月末日に開催される研究集会等が対象）には9名の方から応募があり、その中から、下記の5名に各5万円を助成することが決まりました。この選考は庄野利之参与（大阪大学名誉教授）を委員長とする選考委員7名によって選ばれたもので、同じく、

目次

- 2005年度近畿分析技術研究奨励賞の受賞者決まる ----- p.1
- 2005年第1期近畿分析技術研究国際交流助成に5名が選ばれる ----- p.1
- 第5回常任幹事会、第3回幹事会の開催 ----- p.2
- 基礎分析化学講習会の報告 ----- p.3

第3回幹事会で承認されました。助成者には「ぶんきんニュース」に報告を書いていただくことにしていますので、そのうちにご覧いただけるものと思います。

また、この助成の第2期分は2006年度6月から11月に開催される国際研究集会等を対象として募集します。締切は2月末日ですので、ふるってご応募ください。

倉橋 健介	京都大学 大学院理学研究科 博士後期課程3回生	米国ハワイ州ホノルル市 シェラトンワイキキ、他ワイキキ周辺ホテル 2005.12.15～2005.12.20
会議名	2005 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2005)	
児玉谷 仁	神戸大学 総合人間科学研究科 博士後期課程3年	米国ハワイ州ホノルル市 シェラトンワイキキ、他ワイキキ周辺ホテル 2005.12.15～2005.12.20
会議名	2005 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2005)	
今倉 精一	京都大学 大学院工学研究科 修士2年	米国ハワイ州ホノルル市 シェラトンワイキキ、他ワイキキ周辺ホテル 2005.12.15～2005.12.20
会議名	2005 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2005)	
山本陽二郎	大阪府立大学 大学院工学研究科 博士後期課程2年	米国ハワイ州ホノルル市 シェラトンワイキキ、他ワイキキ周辺ホテル 2005.12.15～2005.12.20
会議名	2005 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2005)	
朝井 知子	甲南大学 大学院理学部分子化学科 修士1年	オランダ アムステルダム RAI Internatinal Exhibition&Congress Centre 2006.1.22～2006.1.26
会議名	MSB'2006 (20th International Symposium on Microscale Bioseparatoions)	

第5回常任幹事会、第3回幹事会が開催される

12月9日(金)の午前中に第5回常任幹事会、午後に第3回幹事会が開催された。議事録はまもなく支部のホームページ (<http://www.bunkin.org/>) に掲載されますのでご覧ください。

基礎分析化学講習会の報告

ここ数年、機器分析化学講習会とともに支部が主催している基礎分析化学講習会は、いずれも好評です。最近おこなわれた第2回、第3回の基礎分析化学講習会の報告をいただいたので下記に掲載します。

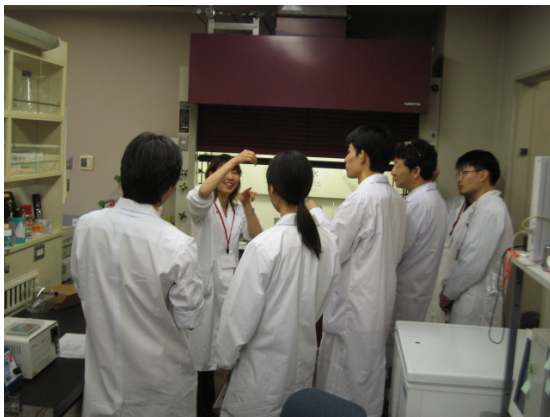
H17年度 第2回 基礎分析化学実習

10月29日、標記実習が「金ナノ粒子の作製と分析化学的応用」というテーマで大阪府立大学産学官連携機構本館において開催された。あいにくの天候にもかかわらず近畿支部外からの参加者3名を含む11名の参加者が企業、大学から集まった。

実習の前に長岡教授から金ナノ粒子に関する講義が行われた。講義は、金ナノ粒子の作製方法とその基礎物性から始まり、応用例としてバイオ・医療分析、エレクトロニクス、センサへの応用などについて分かり易く紹介された。引き続き実習内容について簡単な説明が行われた。

実習は基礎および応用について行われ、基礎実習では粒径2および30nmの2種類の金微粒子の作製を行い、調製した微粒子のUVスペクトルを測ることなどにより物性評価を行った。続いて行われた応用実習（金微粒子の分析化学的応用）は、金ナノ粒子を用いた微粒子薄膜の作り方と金ナノ粒子の分散・凝集を利用したDNA検出法の二つのコースに別れて行われた。講義後の質問時間、休憩中、実習中、多くの質問・疑問がインストラクターの大学院生や教官に寄せられ、土曜日にもかかわらず参加者、開催者とも非常に有意義な時間を過ごすことが出来たと思っている。

実習担当 TS（大阪府立大学工学研究科後期博士課程）



第3回基礎分析化学実習報告

京都大学化学研究所
宗林由樹

2005年11月19日（土）午後1時から、京都大学化学研究所にて、第3回基礎分析化学実習「ICP-MSによる微量金属分析の基礎」を開催いたしました。12名の講習生にご参加いただきました。

講習生は、「ICP-MSによる微量金属分析の基礎」についての講義を聴講した後、器具洗浄、標準溶液調製、クリーンろ過、ICP-MS測定を実習しました。講義は宗林が、実験実習指導は宗林研究室の職員・学生が担当いたしました。実試料として、雨水、宇治川水、琵琶湖南湖水を用い、Mn, Ni, Cu, Zn, Cdの定量を行いました。最後に、ささやかな懇親会で懇談を行い、午後7時過ぎに日程を終了しました。

私たちの準備が不十分なところがあり、あまりよい定量結果は得られませんでした。講習生の皆さんには何かしらご参考になったようです。また、私たちの研究室の職員・学生にとってもよい経験をさせていただきました。

実習の準備、実施に当たりまして、小山幹事ならびに近畿支部事務局の末松さんにたいへんお世話になりました。ここに御礼申し上げます。

会員拡充キャンペーン中

日本分析化学会は、現在、会員拡充キャンペーン「10,000名の生き生き学会に育てよう!」をおこなっています。期間は、2006年7月末までで、これまでに入会されると、(1)入会金免除、(2)紹介者には「紹介者獲得ポイント」が2倍、(3)支部には、年会費の10%相当額を還元、というインセンティブが与えられています。会員拡充にご協力をお願いします。